

地球温暖化防止新技術プログラム

～ 新技術で温暖化をストップ！ ～

16FY (うち運営費交付金) 15FY (うち運営費交付金)
175.1億円(119.8億円) 199.6億円(68.1億円)

目的	地球温暖化問題は我々の社会に与える影響の大きさや深刻さから、喫緊に対応すべき課題であり、大気中への温室効果ガス、特にその大半を占める二酸化炭素の排出抑制が求められている。そのため、エネルギーの消費を抜本的に改善する革新的技術開発及び二酸化炭素を分離回収・固定化したり、有用物質に変換する技術開発を、総合的、効率的かつ加速的に推進し、その導入・普及を促進することにより、環境・エネルギー・経済のバランスのとれた持続可能な社会の構築を図る。
目標・効果	2010年時点において革新的技術の導入・普及がなされ、京都議定書に定められた削減目標のうち0.6%分に寄与することを短期的な目標とする。また、中長期的な視点に立脚して、CO ₂ の更なる削減を可能とする固定化・有効利用技術を確立する。これらの技術により、エネルギー消費を抑制しつつ、かつ持続的な経済成長を確保することを可能とするとともに、世界でトップクラスの温暖化防止技術による国際競争力の確保を図る。

施策パッケージのポイント

・革新的エネルギー消費削減技術開発(25テーマ)

自動車軽量化技術(アルミ、CFRP、カーボンナノファイバー、超微細粒鋼)
次世代ディスプレイ技術(プラズマ、カーボンナノチューブFED、高分子有機EL、有機デバイス、ナノガラス)
IT関連技術(次世代FTTH構築用有機部材、積層メモリチップ、インダクタ回路基板)
発電関連技術(変圧器磁芯材料、超電導交流機器、ワイルド、熱電変換システム)
化学プロセス技術(省エネ型蒸留塔、省エネ型プラスチック製造、超臨界流体)
金属製造プロセス技術(新焼結プロセス、SF₆フリーマグネシウム製造)
その他技術(光触媒住宅部材、高効率水素分離膜、鋼構造接合、低摩擦損失駆動機器)

16FY(15FY)
115.2億円(141.9億円)

・CO₂固定化・有効利用技術開発(11テーマ)

CO₂の分離・回収・固定化・有効利用技術の開発
基盤的研究(プログラム方式CO₂固定化・有効利用技術)
回収・隔離・貯蔵(低品位廃熱利用回収、海洋隔離影響評価、地中貯留、炭層固定化、大規模固定化)
有用物質転換(石炭・古紙等活用型燃料転換)
実用化開発(CO₂固定化・有効利用技術実用化開発、京都議定書目標達成産業技術開発促進事業)
国際協力(国際連携推進事業、国際研究推進事業)

16FY(15FY)
59.9億円(57.7億円)

政策上の活用等のポイント

(政策目標の実現に向けた環境整備)

開発した成果について社会への早期普及・導入を図るため、それぞれの技術開発成果に応じた適切な普及促進制度の活用策についての検討を行う。

(当該プログラムの実施に関する重要事項)

2004年地球温暖化対策推進大綱の見直しに伴う対応を行う。